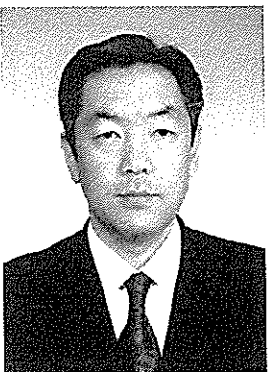


桜井英治

(さくらい えいじ)



略歴

一九六一年、茨城県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。北海道大学文学部助教授、同大学院文学研究科助教授、東京大学大学院総合文化研究科助教授、同准教授を経て、現在、同教授。著書に、『日本中世の経済構造』、『室町人の精神』、『破産者たちの中世』など。

〈受賞のことば〉

いまから一五年以上も前になるが、そのころ私は、中世後期の約二〇〇年間だけ流通したあと忽然と姿を消してしまった「割符」とよばれる定額手形のことなどを追いかけていた。その過程で、たまたま同じような機能をもつ文書が流通経済の場だけでなく、贈答儀礼の場にも存在していたことに気づいたのである。それが本書でも触れた「折紙」にほかならないが、この発見によって眼前の霧が晴れたとおうか、中世人のものの考え方というものが一気に見とおせた気がした。

要するに、本書のほぼすべては約一五年前のその瞬間にすでにできあがっており、論文もいくつか発表していたのであるが、このような一般書のかたちをとるまでは世間の知るところとならなかつた。このタイムラグはけっこうして小さくない。一研究者として発信を怠ってきたことを深く反省するとともに、出版人の諸兄姉には、まだまだ埋もれているであろう、真に価値のあるものを掘り起こすべく、つねにアンテナを張りめぐらしてほしいとも思う。角川文化振興財団と審査員の皆様にご心よりお礼申し上げます。